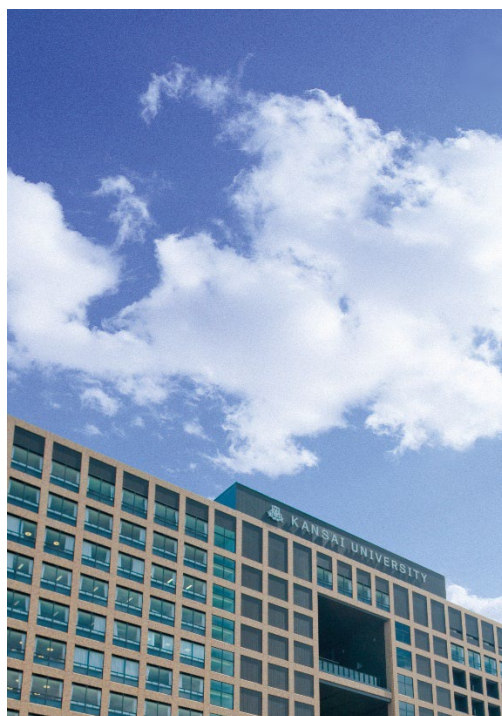


関西大学 初等部
2025 年度学校評価報告書



2026 年 3 月

目 次

1. 本校の概要	1
2. 今年度の重点目標における取組計画・内容、自己評価及び今後の改善方策	1
3. アンケートの実施状況	17
4. アンケート結果の分析	17
5. 学校関係者評価委員会からの評価結果	20
6. 校長の意見書	22
7. アンケート結果	23

1 本校の概要

(1) 沿革

2010年(平成22年)4月、学校法人関西大学の初めての小学校として高槻市に開校、中等部・高等部とともに12年一貫教育を行う。学級数12、児童数371名、教員数35名(専任20名、特別契約1名、非常勤12名、特任外国語講師1名、派遣外国語講師1名)(2025年5月1日現在)である。

(2) 建学の精神、教育理念・教育方針・教育目標等

本学の教育理念である「学の実化」に基づき、学理と実際との調和を基本とする教育を展開し、「確かな学力」「国際理解力」「健やかな体」「情感豊かな心」を養い、高い倫理観と品格を備え「高い人間力」を有する人間を育成する。

校訓として「考動 ー学びを深め 志高くー」を掲げ、めざす子ども像は「考える子」「感性豊かな子」「挑戦する子」としている。

2 今年度の重点目標における取組計画・内容、自己評価及び今後の改善方策

(1) 重点目標①: 本校教育の柱である思考力育成の取組のさらなる充実を図るとともに、主体的・探究的に授業研究に取り組むこと

達成状況の目安: (◎)大幅達成・(○)達成・(△)未達成・(×)大幅未達成

取組計画及び評価指標(Plan)	自己評価
<p>ア 安定した学級経営と学力向上</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣や学習規律の定着による安定した学級経営及び学習指導(オープンスクール参加者対象アンケートの自由記述欄の各授業での教員・児童評価及び、保護者の学校評価アンケートの当該設問の肯定的回答85%以上) 校長による日常的な各学級の授業等参観 児童の学力向上に資する教員の研究授業・研究会の実施及び教科会議等の実施 研究発表会(2026年2月7 	<p>【取組状況(Do)】</p> <p>安定した学級経営については、日常的な指導を通して基本的な生活習慣や学習規律の定着を図った。連絡帳や電話による直接連絡、学級・学年だよりに加え、学級・学年ブログを活用することで家庭との連携を進めた。また、日記や生活アンケート等を通して児童の内面に寄り添った指導・支援を行った。さらに、各担任・教科担当と管理職の連携を密にし、課題に対して迅速に対応するように努めた。</p> <p>学力向上については、研究テーマを「AI時代に求められるクリティカルシンキングの育成」と設定し、実践的な研究を進めた。</p> <p>ICT環境の整備及びICTの活用については、ADP(Apple Distinguished Program)2016-2018、ADS(Apple Distinguished School)2018-2021・2021-2024に続き、ADS 2024-2027の認定を受けている。iPad等のデジタルデバイスを効果的に活用し、ロイノート等のアプリの活用やプログラミング学習の実践を通して、児童の学びを深め、広げている。</p> <p>また、児童の学習活動の充実を図るため、各学年において外部人材の協力を得た教育活動を展開している。</p>

<p>日) や「“Think×Act”×CREATION」の開催(6月28日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全国学力学習状況調査結果(国公立大学附属校の平均点を上回る。) 	<p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>毎日、校長が各教室を巡回し、児童の様子や教員の指導状況を把握するとともに、教員からの報告を踏まえて学級の状況を確認し、状況に応じた相談を行った。その結果、年間を通して各学級において安定した学級経営が行われ、児童が落ち着いた環境の中で主体的に学習に取り組む姿が見られた。</p> <p>また、学校運営については週1回、生徒指導・教科指導等の各面については月1回の定例会議を実施し、教員間の児童の情報共有を図るとともに、指導力の向上と指導内容の充実に努めた。</p> <p>6月に実施したオープンスクールに参加した受験対象者からは児童が主体的に学び合う姿やそれを引き出す教員の指導力について高い評価を得ている。アンケートに寄せられた具体的な記述の一部を紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 先生方の児童との接し方にとっても感動を覚えました。なぜならそれは与えるだけの教育ではなく、共感に基づく共創の姿勢が強く見えたからです。 ・ どのクラスでもディスカッションがとても活発で、子ども同士が意見を伝え合い、聞き合う様子が印象的でした。発言の多さからも、日頃から主体的に学ぶ姿勢が育まれていることが伝わってきました。 ・ 特に印象に残ったのは、考えることを考えるというミューズ学習を取り入れた授業の様子です。子どもたちの思考力の高さを感じ、子どもたちが考えを伝え互いに尊重し合う姿から、日頃の教育の質の高さを感じることができました。 ・ 温かいやりとりが自然に交わされる貴校の教室には、多様な価値観を尊重し、間違いを肯定する安心・安全な学びの環境がしっかりと根づいていることを実感いたしました。 <p>保護者アンケートにおいても、学級経営・学習指導に関する項目(No.2～8・11～15)において最低でも89%、最高では98%の肯定的な評価をいただいている。</p> <p>今年度も管理職を除く全教員が研究テーマに沿った研究授業を実施し、研究授業ごとに事後研究会を実施した。その際、これまで継続して指導を受けている関西大学総合情報学部の黒上晴夫教授から指導助言を受け、指導力の向上を図った。</p> <p>実践的な研究の成果をまとめる機会として、2月7日(土)に第15回関西大学初等部・中等部研究発表会を開催した。本年度より名称を「初等部・中等部研究発表会」と改め、初等部と中等部の連携をより一層深めた研究会となった。今年度も初等部では例年同様、管理職を除く専任教員全員が授業を公開し、中等部では</p>
---	---

	<p>外国語・数学・国語・理科・社会・保健体育の6教科の授業を公開した。当日は450名の方にご参観いただいた。参観者のアンケートに寄せられた具体的な記述の一部を紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちがそれぞれ自分なりに価値についてよく考えていると感じた。テーマ自体はとても難しいと思ったが最後まで粘り強く色々な友達の意見などを聞きながら思考していることに感心した。先生の教材研究(探究)が素晴らしく、その熱意や研究の深さが子どもたちの思考に表れていると思う。 ・子どもたちがどんどん自分の考えを発言していました。これまでの読みの積み重ねで根拠をもとによく考えていました。また先生が発言のキーワードを拾って立ち止まり、さらに深められました。 ・クリティカルシンキングについて、授業レベルでの具体を知ることができました。教師が考え続けること、教師が気づく力を高めていくことの重要性を改めて実感しました。 <p>以上のように、児童の学びの姿や教師の実践力などについて高い評価を得ることができた。</p> <p>また、本年度も6月28日(土)に、テーマを「情報活用能力スタンダードに基づくICTの有効活用」としたICT活用の公開授業「“Think×Act”×CREATION2025」を開催し、授業を公開した。参観者のアンケートに寄せられた具体的な記述の一部を紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々なシンキングツールを教員が意図的に使うことで、子どもが学び、今後はその中で子ども達が自分達でシンキングツールを選んで使えることが、主体的に学ぶことにつながっていると感じる。 ・ICTを利用することで児童の意見を素早く全体共有したり、そこから新たな問いを見出したりできていたと感じました。また、発言できない児童の意見も拾えるいいアイデアだと再認識できました。 ・AIを使用する前に、批判的思考力・論理的思考力・想像力を培い自分の軸を持つことでAIに飲み込まれない児童を育成できるのではないかと考えられた。 <p>以上のように、ICTやAI、シンキングツールの利活用等について高い評価を得ることができた。</p> <p>2024年10月に発足した関西大学・高等部・中部部・初等部合同のプロジェクトチーム「AIリテラシー・ガイドライン策定委員会」においては、生成AIの利活用について教員・保護者・児童向けのガイドラインを作成することができた。</p> <p>昨年度は、文部科学省の全国学力・学習状況調査において私立</p>
--	--

	<p>・国立小学校の平均点を大きく上回る結果であったが、本年度は国立とほぼ同等の得点であった。</p> <p style="text-align: center;">2025年度 全国学力・学習状況調査結果</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>全国平均</th> <th>私立平均</th> <th>国立平均</th> <th>本校平均</th> <th>標準偏差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国語</td> <td>67.0</td> <td>75.4</td> <td>80.1</td> <td>81.9</td> <td>2.3 (3.0)</td> </tr> <tr> <td>算数</td> <td>58.2</td> <td>72.3</td> <td>76.2</td> <td>78.0</td> <td>2.9 (4.0)</td> </tr> <tr> <td>理科</td> <td>57.3</td> <td>64.1</td> <td>70.9</td> <td>73.0</td> <td>2.7 (3.8)</td> </tr> </tbody> </table> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>今年度は、これまでの取り組みを継続するとともに、新たな研究テーマを設定し、児童の学力向上に取り組んできた。今年度の取り組みの成果と課題を共有し、次年度においても教員全体で学力向上に努めていきたい。今後は、基礎・基本の定着を一層図るとともに、児童の思考力・表現力を高める指導の充実も目指す。</p> <p>児童の生活面については、学年団での密な連携を継続するとともに、管理職への報告や、職員会議等における児童の実態共有の場を引き続き設定していく。</p> <p>ICT 活用については、プログラミング、ICT の効果的な活用方法、情報モラルの指導に加え、生成 AI を含む AI リテラシーについて、ガイドラインに基づいた系統的な指導を学校全体で進めていく必要がある。生成 AI を含む AI リテラシー・利活用ガイドラインについては、大学・高等部・中等部の共通認識のもと、体系的なガイドラインを実践の中で活用していく。今後も、関西大学・高等部・中等部・初等部合同のプロジェクトチーム「AI リテラシー・AI ガイドライン策定委員会」を中心に、生成 AI の利活用に関する議論や実践を継続していきたい。</p>		全国平均	私立平均	国立平均	本校平均	標準偏差	国語	67.0	75.4	80.1	81.9	2.3 (3.0)	算数	58.2	72.3	76.2	78.0	2.9 (4.0)	理科	57.3	64.1	70.9	73.0	2.7 (3.8)
	全国平均	私立平均	国立平均	本校平均	標準偏差																				
国語	67.0	75.4	80.1	81.9	2.3 (3.0)																				
算数	58.2	72.3	76.2	78.0	2.9 (4.0)																				
理科	57.3	64.1	70.9	73.0	2.7 (3.8)																				
<p>イ 図書館教育の充実</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館司書との連携による読書・資料活用促進（個人の各月読書冊数の一覧表作成、中学年以上を中心に、各授業等での活用のための学年への資料本貸し出しの実施） ・ 図書館活用のための講座の各学年 1 回以上実施 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <p>思考力育成の土台となる読書活動の充実を図るため、学年に応じた児童への声かけを行うとともに、各児童が借りた本の冊数を集計し、一覧表を作成するなど、日常の指導に活用している。図書授業では読書活動に加え、図書館司書による読み聞かせや読書メソッドの活用、調べ学習における資料の活用などを通して、情報活用能力の育成にも力を入れている。また、各学年のオープンスペースには、学習内容に応じて、ブックトラックを設置し、読書活動や調べ学習の一層の充実を図っている。</p> <p>現在開設している「デジタル図書館」は、子どもたちが自宅か</p>																								

<ul style="list-style-type: none"> ・ 読書メソッドの活用（ブックトーク、アニメーション、リテラチャーサークル、ビブリオバトル等を学年に応じて実施） ・ 外部講師を招聘した講演会等の実施（10月1日） 	<p>らでも自由に本を借りることができるシステムである。このため、長期休校や夏休みなどの休業期間中においても、子どもたちは興味・関心に応じて主体的に読書に取り組むことができた。</p> <p>さらに、司書による図書館活用講座に加え、本年度は、写真絵本『ノーズウッズの森で』『春を探して カヌーの旅』『もりはみている』などの著書で知られる写真家・作家の大竹英洋氏を講師に迎え、「野生動物や自然」「仕事ややりがい」をテーマにご講演いただいた。</p>
	<p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>5名の司書は、児童の選書支援をはじめ、情報活用に関わる支援や教員への支援を行っている。読書講座については、図書館活用オリエンテーションに加え、図書の分類や図鑑の活用方法等、探究活動につながる指導も行った。</p> <p>本年度も、各学年に図書館活用のための講座を1回以上実施するとともに、読書メソッドの活用として、ブックトーク、アニメーション、リテラチャーサークル、ビブリオバトル等を各学年で実施した。</p> <p>図書室の読書スペース「わくわく館」と学習スペース「はてな館」は、目的に応じて使い分け、読書に加え、探究学習のための情報収集の場として活用している。</p> <p>本年度も「はてな館」に児童が興味・関心を喚起するブースを期間限定で設置し、児童が図書室に足を運ぶ機会の増加を図った。例えば、季節にちなんだ「妖怪の本」、読書会と関連させた「大竹氏の著書の写真集や本」、そして「子どもたちのおすすめの本」を展示することで、児童の関心を高めた。また、オープンスペースのブックトラックに資料本を置くことで、児童の図書活用の頻度が高まっている。</p> <p>昨年度システム変更を行った「デジタル図書館」の新しいシステム（Mottosokka!：ポプラ社）は、蔵書数が328冊から4300冊へと増加した上に、貸出冊数に制限がなく、複数名で同時に閲覧できることから、利用率が上がり、子どもたちの読書意欲を高めるものとなった。</p> <p>文部科学省の定める「義務教育諸学校の学校図書館に整備すべき蔵書の標準」によると、学級数12クラスの学校における標準蔵書数は7920冊となっているが、本校ではデジタル館の蔵書を含め、約24000冊を超える蔵書数となっている。</p>

	<p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>思考力育成の土台となる基本的な語彙や知識の獲得は、計画的な図書館教育によって支えられている。今後も、読書指導と情報活用力の育成の両面から、次年度以降も継続して取り組んでいきたい。</p> <p>児童の興味・関心を引くブースを期間限定で設置することは、図書室に足を運ぶ機会の増加に大きな効果があったことから、継続して設置していきたい。</p> <p>また、外部講師による講演は、児童の読書への興味・関心を高める有意義な機会となったため、今後も積極的に継続していきたい。</p>
<p>ウ 国際理解教育の推進</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 英語圏、アジア圏の国々との積極的な交流 ① 各学年（2年生以上）の国際交流取り組みの継続実施 ② 交流国、交流内容に応じたテレビ会議や互いに作成した資料交流等を実施 ③ 英語教育との関連づけ（テレビ会議、修学旅行等の交流に合わせたコミュニケーションスキルの習得機会を設定） 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <p>国際交流については、2年生以上の学年において、テレビ会議システムの活用や、手紙・学習成果物を用いた直接の交流の取り組みが定着してきている。2年生の韓国、3年生の台湾、4年生のフィリピン、5・6年生のニュージーランドと、テレビ会議システムを活用した交流を継続して実施してきた。また、インドネシアの子どもたちとの交流は、本年度から新たにスタートした取り組みである。</p> <p>各学年においては、交流の際に英語で質問や挨拶ができるように、英語のモジュール学習や授業を計画的に進めている。</p> <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>交流相手校や関係機関と連携し、2年生は韓国の花津小学校、3年生は台湾の太平国民小学校、4年生はフィリピンのアテネオ小学校、5・6年生はニュージーランドのタハタイ小学校との交流を実施することができた。</p> <p>2年生の交流校である花津小学校は、2012年に本校と提携校となっており、これまで継続的に交流を行ってきた。本校教員と花津小学校教員ともに交流を積み重ねてきたことに加え、本年度は互いに現地を訪問する機会もあったため、意思の疎通がより円滑となり、短時間の打ち合わせでも充実した交流を行うことができた。</p> <p>3年生の交流校である太平国民小学校も、これまで9年間継続して交流してきた学校である。さらに、この学校に隣接する國立臺中科技大學の黄教授（日本語を指導担当）のサポートを受けることができたことで、交流を円滑に進めることができた。</p> <p>4年生がフィリピンのアテネオ小学校を交流先としたのは、総</p>

	<p>合的な学習の時間に取り組んでいる「防災」「共生」に関する学習内容と関連づけるためである。フィリピンは火山を有し、地震や津波、洪水、火山の噴火などの自然災害が多い国であるとともに、生活する人々の多様性や社会的格差が顕著であるという特徴があり、多文化共生や共生社会の学習と関連を図りながら学習を進めることもできた。</p> <p>5・6年生の交流校であるタハタイ小学校は、昨年度の修学旅行の渡航をきっかけに交流を始めた。今後も継続した交流を予定しており、担当教員同士が密に連絡を取り合う体制を築くことができた。</p> <p>各学年において、事前に交流テーマを設定し、英語を交えた直接交流を行うことで、児童は意欲的に活動に取り組み、異文化理解を深めるとともに、コミュニケーションに対する自信をもつことができた。</p> <p>英語教育においては、4技能をバランス良く育てることを目標にカリキュラムを工夫し、コミュニケーション能力の基礎を養う指導を進めた。1年生から4年生までは、保護者向け英語発表会も実施している。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>2年生の韓国・花津小学校、3年生の台湾・太平小学校は、継続的に交流を進めることができている。2年生が14年間、3年生が9年間交流を継続してきたことで、低学年における国際理解教育のカリキュラムは、段階的かつ体系的になってきている。</p> <p>今後は、4年生以上の学年についても、子どもたちにとって価値ある体験を継続的に積み重ねられるよう、交流の検討を進めていきたい。</p>
--	--

(2) 重点目標②：良好な校風醸成の基盤となる生活規範、倫理観、人権意識の向上等について全教育活動を通じて推進すること

取組計画及び評価指標(Plan)	自己評価
<p>ア 生徒指導・人権教育の充実</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校全体で児童を指導・支援する体制の進化（年度当初の「子どもを語る会」実施及び児童の情報交流・ショート会議を随時実施） 児童対象の生活アンケート 	<p>【取組状況(Do)】</p> <p>本年度も、教員による日常的な児童観察に加え、生徒指導連携会議（構成メンバー：管理職、生徒指導主任、教務主任、健康教育担当、当該学年主任・担任）を、生徒指導の中核として位置づけた。また、障がいのある子どもが十分に教育を受けられるよう、「合理的配慮の提供」が2024年に義務化されたことを踏まえて、「特別支援連携会議」（構成メンバー：管理職、特別支援コーディネーター、教務主任、生徒指導主任、健康教育担当、当該学年主任・担任）を校務分掌に位置づけ、組織的な支援体制を整え</p>

の年2回実施（実態把握と必要に応じた学校全体での早期対応）

- いじめ問題・不登校等への対応など生徒指導に係る校内体制の進化（生徒指導連携会議及び、いじめ・不登校対策委員会実施による早期発見・早期対応）
- 特別支援教育に係る校内体制の確立（特別支援連携会議や特別支援チーム会議の実施）
- 人権教育の取り組み充実（全児童対象の人権教育講演会を1回実施、情報モラルに係る学習機会の設定など）

ている。

児童に関する情報の共有については、「子どもを語る会」や毎月の職員会議における各学級の状況報告を通して、支援を必要とする児童について教員全体で共有理解を図った。また、一人ひとりの状況把握のため、全児童を対象とした生活アンケートを実施した。

さらに、保護者に対しては、「学校のきまり」を用いて、生活指導全般への理解と協力を依頼している。いじめや不登校問題への対策については、管理職を含む「いじめ・不登校対策委員会」を設置し、必要に応じて迅速かつ適切に対応できる体制を整えている。

人権教育については、児童の人権意識の向上を目的に、学年ごとのカリキュラムを作成し、計画的に実施した。また、人権教育講演会を実施し、理解の深化を図った。

【達成状況(Check)】(○)

年2回実施している児童生活アンケートについては、生徒指導部会が集約・分析を行い、日常の指導に活かすとともに、必要に応じて全教員で情報共有を行った。また、「その日の問題はその日のうちに解決」をモットーに、担任を中心として電話や連絡帳を活用し、家庭との円滑な意思疎通を図った。その結果、学校と家庭が一体となった指導・支援を行うことができた。さらに、「子どもを語る会」を年度当初に全教員で実施し、随時、児童の状況の情報交換を行った。加えて、次年度当初には前担任と新任が引き継ぎを行い、継続的な支援体制の構築に努めている。

不登校傾向対応については、担任が一人で抱え込むことのないよう、早期に「いじめ・不登校対策委員会」を招集し、定期的を開催した。あわせて、ミューズキャンパスのスクールカウンセラーと連携も図りながら、学校全体で組織的に対応に取り組んだ結果、一定の成果をあげることができた。

特別支援教育については、中等部・高等部の取り組みを参考にしながら、組織的な対応ができる支援体制を構築した。特別支援コーディネーター（1名）とともに業務を担う「特別支援コーディネーターチーム（4名）」を設置し、月1回の定例会を開催することで、特別支援コーディネーター担当教員の負担軽減を図るとともに、より組織的な対応を可能にした。この新たな支援体制のもと、「個別の教育支援計画」の策定や外部専門家を招いての巡回指導・相談を定期的実施するなど、具体的かつ効果的な支援を行うことができた。

人権教育については、分野別の学年カリキュラムに基づき指導

	<p>を進めた。毎年実施している全校生を対象にした人権講演会については、本年度は3年生から6年生を対象に実施した。「安全・安心なインターネットの使い方」をテーマに、甲南女子大学で講師をされている富田幸子氏を招き、インターネットに潜む危険やインターネットに起因する人権侵害について講演いただいた。日常的に使用している iPad の使い方について改めて考える貴重な機会となった。</p> <p>また、各学年を対象に外部講師を招いた「いのちの授業」を実施し、子どもたちの人権感覚の育成を図った。1年生・3年生・4年生は大阪府助産師会、5年生は大阪府こころの健康総合センター、6年生は東京学芸大学附属国際中等教育学校からそれぞれ講師として招き、2年生は学校歯科医による授業を行った。各学年の発達段階に応じた指導を通して、命の大切さや人権について深く考える有意義な時間となった。</p> <p>情報モラルの指導については、本年度も全校児童を対象に授業を実施した。いずれの学年においても、児童の発達段階に応じた内容で指導を行うことができた。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>児童は全体的に落ち着いて学校生活を送っているものの、毎月の職員会議においては、職員間で情報共有すべき事案が数件報告された。今後も引き続き、職員間での情報共有を大切にし、多くの教員の目で児童の様子を把握しながら、学校全体で課題解決にあたる体制を継続していきたい。</p> <p>人権教育に関わるカリキュラムについては、ねらいや内容を全教職員で共有するとともに、部会を中心に検討・精査を重ね、より充実したカリキュラムへと改善していきたい。</p>
<p>イ よりよい学校生活を築く態度を育成する特別活動の推進</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 集団への所属感や望ましい人間関係育成のための行事開催（宿泊体験学習や各学年によるイベントの開催など） ・ 児童の自主性及び児童相互のつながりを育むための集団活動の実施 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <p>各学級・学年において、年度当初に年間目標を設定し、児童が主体的かつ協働的に学校生活を送ることができるよう取り組んできた。</p> <p>宿泊体験学習については、2年生は高槻（1泊2日）、3年生は奈良（1泊2日）、4年生はスキー合宿（2泊3日）、5年生は福井（3泊4日）、6年生はニュージーランドへの修学旅行（4泊7日（機内泊2泊））を、それぞれ実施することができた。</p> <p>また、5・6年生による委員会活動及び4年生以上によるクラブ活動についても、いずれも計画通り実施した。</p> <p>本年度の特別活動では、「学級・学年にとどまらず、縦割り活</p>

<p>委員会活動・・・年 10 回実施 クラブ活動・・・年 8 回実施 縦割り MUSE タイム ……年 9 回実施</p>	<p>動等に積極的に取り組み、仲間意識や所属感の醸成を図る」ことを重視し、縦割り活動の充実に努めた。</p> <p>さらに、文化鑑賞会については、本年度は全校児童で京都・南座を訪れ、歌舞伎「流白浪燦星」を鑑賞した。</p> <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>5年生の宿泊体験学習は、昨年度と同様に3泊4日で実施し、3泊のうち2泊を民泊とした。また、6年生の修学旅行についても、ニュージーランドでの4泊のうち2泊をホームステイとし、2人1組で現地の方にお世話になった。5・6年生ともに、ホテル泊では味わうことのできない、貴重な体験をすることができた。</p> <p>本年度も昨年度に引き続き、特別活動において「たてわり」活動の充実に努めるため、「全校縦割り活動」の実施回数を増やし、年間9回実施した。また、本年度の運動会についても、「子どもたちの主体性を尊重する運動会」を目標に取り組みを進めた。縦割り班の仲間意識を育む「縦割り競技」の実施や、団体競技の種目を学年担任と子どもたちの話し合いによって決定するなど、昨年度の取り組みを継続した。さらに、子どもたちの主体性を尊重する趣旨のもと、出場種目を子どもたち自身が選択するエントリー競技を実施し、その内容についても6年生の運営委員会で話し合っただけでなく保護者からも非常に好評であった。</p> <p>本年度の文化鑑賞会は、全校児童で京都・南座を訪れ、歌舞伎「流白浪燦星」を鑑賞した。子どもたちが本物の芸術に触れるという観点から、劇場に全員で足を運んだことは、大変意義のある活動であった。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>学校行事については、文化祭や運動会等において、全児童が十分に力を発揮し、達成感を得るとともに自尊感情を高めることができたことを捉えている。今後も、こうした取り組みを継続していきたい。</p> <p>また、全校生による文化鑑賞会についても、来年度以降、引き続き実施していきたい。</p>
---	--

(3) 重点目標③：管理面・指導面について継続的に改善を図るとともに、中高等部・大学及び保護者との連携を意識した学校運営体制を整えること

<p>取組計画及び評価指標(Plan)</p>	<p>自己評価</p>
<p>ア 安心・安全の学校生活を構築するための安全管理・指導</p>	<p>【取組状況(Do)】 登下校のマナー指導や危機対応については、日常の学級指導に</p>

【評価指標】

- ・ 児童の安全管理に関する定期的な訓練及び指導の実施
一斉下校指導・・・4・8月
引き渡し訓練・・・6月
不審者対応訓練(教職員のみ)・・・10月
関大防災 Day・・・10月
火災・地震避難訓練・・・1月
- ・ 教育後援会(保護者)との連携及び啓発(地区委員会による通学「守り活動」や啓発活動の実施)
- ・ 各種警報等対応マニュアル・ガイドラインの確立

加え、全校集会やテレビ放送を通して具体的な指導を継続的にを行い、児童の意識向上を図った。さらに、学校日より「初等部日より」や生徒指導通信「関大っ子」を通じて、安全に関する保護者への啓発にも努めた。加えて、例年通り教育後援会主催による「子ども見守り活動」及び「関大っ子登下校等安全見守り活動」が実施された。

本年度4月以降、電車・バスの乗車マナーに関する苦情が学校に寄せられたことを受け、通学時間帯の該当する電車に本校教員が同乗して指導を行うなど、電車内や駅ホームにおけるルールやマナーの徹底を図った。

管理面においては、地震や火災等を想定した避難訓練を実施し、児童の安全確保に万全を期すよう努めている。

【達成状況(Check)】(◎)

登下校のマナー指導や危機対応については、学級指導や全校集会、テレビ放送等を通して、具体的に「こんなときにはどうするか」を子どもたち自身に考えさせる指導を継続して行った。その際、一方的に教え込むのではなく、自らの行動を振り返り、「考動」できるよう意識づけを行った。また、電車やバスの乗車マナーについては、学校に寄せられた苦情電話やメールの内容をもとに、具体的な電車・バスの時刻を特定し、当該児童への個別指導を行った。あわせて、実際に通学時間帯の電車に教員が乗車し、子どもたちに直接指導することで、乗車マナーの徹底を図った。

教育後援会による「子ども見守り活動」や「関大っ子登下校等安全見守り活動」では、学年・クラスごとに見守り期間を設定していただくなど、保護者が積極的に見回りに参加できるよう工夫していただいた。また、「子どもの登下校マナー向上活動」の一環として、「わたしの登下校マナーアップ宣言！」と題した登下校マナーポスター作りに取り組み、子どもたちだけでなく親子で登下校時の安全について考える機会を設定していただいた。

全校一斉下校指導については、4月と8月に下校経路ごとの小グループに分かれて実施した。高学年がリーダーとなって活動することで、緊急時の下校体制について確認することができた。

地震・火災発生時の避難訓練については、10月23日の「関大防災 Day」において、初等部・中等部・高等部・社会安全学部を含む高槻ミューズキャンパス全体での避難訓練を実施した。さらに、1月17日には初等部独自の地震・火災避難訓練を行い、地震発生時の留意点や避難経路の確認を行った。また、災害等の緊急時に備え、6月には引き渡し訓練を実施し、災害時の避難体制や家庭との連携について確認することができた。

	<p>10月16日に実施した不審者対応訓練については、毎年高槻警察の協力のもと、実際に不審者が校内に侵入した場合を想定した訓練を実施している。訓練後には取り組みを振り返り、全職員の危機意識を高めるとともに、非常時に対応できる組織体制づくりを進めた。</p> <p>警報発令時の対応については、年度当初に「初等部だより」やホームページを通して保護者との共有を図った。警報発令が予想される場合には、前日に情報収集を行い、休校等の判断を行った上で、ミマモルメを通して事前に連絡を行い、児童及び保護者の安全・安心の確保に努めた。また、本年度は、熱中症及び落雷事故防止対策について、中等部・高等部と共有・連携を図った。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>校内及び登下校時の基本的なルールやマナーについては、全教員が共通認識をもち、日常の学級指導や全校集会等を通して、より効果的な指導となるよう改善を進めていきたい。併せて、火災・地震発生時の避難訓練や引き渡し訓練、不審者対応訓練を計画的に実施し、子どもたちが非常時に自ら考え、適切に行動できる力を育むとともに、教職員の危機対応力の向上を図っていく。</p> <p>また、警報発令時の対応については、保護者への迅速かつ確実な情報発信を行い、学校と家庭が連携して児童の安全を確保できる体制の充実に努めたい。さらに、教育後援会との連携を一層深め、登下校見守り運動の継続や、防災・防犯意識の向上を図ることで、学校と家庭が一体となった安全管理及び安全指導の充実に目指していく。</p>
<p>イ 安心・安全の学校生活を構築するための給食・アレルギー対策の実施</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> アレルギー対応についての教員研修の実施及び職員会議における教員の情報共有 業者及び保護者との連携によるアレルギー対策の徹底（給食業者との月1回の調整会議を実施） 異物混入・アレルギー対応マニュアルの確立 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <p>給食業者が新しい業者が変わってから今年で4年目となる。これまでと同様、業者との連絡・調整を密に行い、アレルギー対応を含め安全・安心な給食の提供に努めている。</p> <p>給食管理・指導については、養護教諭と管理栄養士が中心となり、業者との打ち合わせや定例会議を実施している。アレルギーをもつ児童については、全教員が各児童の状況を把握し、代替食や除去食の対応が見える形で配膳するなど、安全管理に万全を期している。また、前年度末に収集した児童のアレルギー状況の書類をもとに、本年度の対応策を確認し、計画的な対応に努めている。</p> <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>給食業者との連絡・調整を密に行うことで、安全・安心な給食の提供が実現された。定期的な打ち合わせや月1回の定例給食会</p>

	<p>議では、よりおいしい給食を目指した献立作成はもちろん、アレルギー対応などの情報も常に共有し、その結果を当該児童の学年団に共有している。</p> <p>今年度も、4月4日に全教員が参加してエピペン研修を実施し、緊急時の対応について共通理解を深めた。</p>
	<p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>本年度の学校給食については、アレルギー対応に関する大きな問題はなかったが、油断せず、引き続き万全の対応を心がけたい。</p> <p>エピペンを持参する児童も在籍しているため、救急体制については全教員が共通理解を持てるよう、継続的に努める。また、アレルギー対応にとどまらず、給食のメニュー向上に向けても、業者との連携を引き続き強化していきたい。</p>
<p>ウ より多くの出願をめざす入学試験の実施</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 入試広報戦略の検討及び効果的な広報活動の実施(12年間一貫教育) 年4回の学校説明会(オープンスクールを含む)の内容検討及び実施 年50回以上の幼児教室等訪問 	<p>自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <p>今年度も学校説明会、オープンスクール、入試説明会、体験授業を実施した。昨年度と同様に、学校説明会終了後にはグラウンドを開放し、子どもたちが自由に遊べる時間を設定した。</p> <p>今年度の新たな取り組みとして、11月に2回、来年度に向けての学校説明会を実施した。</p> <p>また、広報活動としては、幼児教室関係者との連絡を密に取り、情報交換を継続的に行った。入学試験については、一昨年度から実施しているA日程入試(9月実施)とB日程入試(1月実施)の2回実施を継続し、より多くの受験者の確保を目指した。</p> <p>【達成状況(Check)】(◎)</p> <p>学校説明会1(3月16日)・学校説明会2(5月18日)、体験授業(4月26日)、オープンスクール(6月7日)は、いずれも人数制限を設けずに実施した結果、多くの方からお申し込みをいただいた。申込数は、学校説明会1が229組、学校説明会2が184組、体験授業が174組、オープンスクールが191組であった。一方、150名の人数制限を設け、新たに関西大学梅田キャンパスにて実施した学校説明会(11月12日・20日)では、両日とも105組の申し込みがあり、当日もほぼ満席となった。</p> <p>学校説明会、入試説明会、オープンスクール、体験授業では、多くの参加者から好意的な感想をいただいた。アンケートに寄せられた具体的な記述の一部を以下に紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 説明会を通して、貴校の温かな雰囲気と「学の実化」の理念に深く共感しました。子どもが貴校で多様な体験を重ねながら成長する姿を思い描き、志望の気持ちが一層強まりました。 客観的に考え、自分の思考を整理するためのツールは、現代を

生きる子どもたちにとって不可欠なものだと感じました。互いの考えを客観視し、対話を通して課題解決を図る学びは、人間性を育てる教育であり、ぜひ共に取り組んでいきたいと思いました。

また、本年度初めて実施した 11 月の関西大学梅田キャンパスでの学校説明会では、教育後援会役員からの話も行われ、参加者から以下のような感想が寄せられた。

- ・実際にお子様が行われている保護者の体験談を伺い、学校の温かい雰囲気や、先生方のきめ細やかなご指導、生徒一人ひとりに寄り添い見守ってくださっている様子がよく伝わり、大変感銘を受けました。
- ・教育後援会の方のお話から学校への深い愛着が感じられ、ぜひ子どもを通わせたいと思える内容でした。

さらに、6月29日に実施した ICT 活用に関する公開授業「“Think×Act”×CREATION2025」には、教育関係者に加え、小学校受験に関心をもつ保護者も参観された。参観した保護者からは、次のような声が寄せられた。

- ・小学1年生の国語の授業を拝見し、入学から数カ月にもかかわらず、児童がタブレットを使いこなしていることに大変驚きました。これからの時代に非常に役立つ、素晴らしい授業だと感じました。
- ・一人で考える時間になると、それぞれが自分の好きな場所に移動し、自由なスタイルで学習に取り組んでいた点が印象的でした。子どもたちが自分に合った学び方を理解し、実践している様子が伝わってきました。

本年度の幼児教室訪問は 50 回を超え、4月1日以降の幼児教室関係者とのメールの送受信記録は 200 通以上にのぼった。また、各幼稚園や幼児教室等への働きかけにより、本年度新たに 3 カ所の幼稚園・幼児教室等において学校説明会を実施した。オンラインを含め、本年度に実施した説明会は合計で 30 回近くに及んだ。

その結果、本年度は定員 60 名の A 日程募集に対し 131 名の出願があり、出願倍率は 2.2 倍となった。この倍率は昨年度に引き続き、関西の私立小学校の中で最も高いものである。少子化が進む中、4年連続で出願倍率 2 倍を超えていることから、本校の広報活動により、多くの方に学校の魅力を効果的に伝えることができていると捉えている。

また、若干名を募集する B 日程においても 15 名の出願があり、昨年度同様、多くの方から本校を志望していただく結果となった。

	<p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>説明会で実施したアンケート調査や各幼児教室関係者からの情報によると、今年度も他の私立学校には見られない本校独自の思考力育成への取り組みに魅力を感じるとの声が多く寄せられた。加えて、生成AIをはじめとする今後の社会を見据えた教育への取り組みや、充実したICT環境についても高く評価されている。</p> <p>関西の私立小学校を取り巻く入試環境は依然として厳しい状況にあるが、今後は出願倍率について最低でも2倍、可能であれば3倍以上の確保を目標とし、本校の魅力を継続的に発信していく。そのため、教育活動のさらなる充実を図るとともに、より効果的な広報活動を推進していきたい。</p>
<p>エ 中等部・高等部・保護者・大学との連携の充実</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究や研修等での初中高連携 (研究発表会、AI リテラシー・ガイドライン策定委員会、合同英語研究発表会など) ・ 管理職の随時的かつ密な連携 (月1回程度の初中高定例会議等の実施) ・ 児童生徒の定期的な行事等での連携 (百人一首大会・クリスマスコンサート等) ・ 教育後援会との随時的かつ密な連携 (管理職、事務職、教育後援会役員・委員による月1回の実行委員会実施) ・ 保護者対象の中高等部の説明会・情報提供の充実 (5、6年生保護者に加え、全校保護者対象の会を実施) ・ 教育活動の様々な分野における大学との連携(留学生や 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <p>初中高の連携については、校長及び事務室による初中高管理職ミーティングを月1回実施するとともに、初中教頭・教務主任ミーティングを週1回開催し、連絡調整を図るとともに、初中連携行事等について協議を行った。さらに、初等部・中等部の全教員が参加する初・中連携会議を年2回実施し、情報交換及び初等部・中等部の連携の具体的な方法について検討した。また、昨年度から実施している初中高英語科による授業研究会についても、引き続き実施した。</p> <p>児童生徒間の連携としては、例年どおり百人一首大会、クリスマスコンサート、体育祭における応援合戦の見学等を実施した。</p> <p>保護者との連携においては、担任のみならず教科担当教員が必要に応じて保護者と連絡を取り、家庭との密な連携を図っている。また、中等部進学に向けた情報提供の一環として、5・6年生を対象とした授業参観を実施した。</p> <p>教育後援会との連携については、月1回の実行委員会において教育後援会役員と管理職が情報交換を行うとともに、学校行事への支援、登下校時の見守り、新入学児童への支援、教育後援会独自の行事等について協議を行っている。</p> <p>関西大学からは、研究及び授業への指導、国際交流に関する支援等を受けている。また、4年生のキャンパス訪問を通して大学創立に関する学習を行い、大学への帰属意識を高める取り組みについても例年どおり実施した。さらに、初中高が連携して取り組む「AI リテラシー・ガイドライン策定委員会」を3カ月に1回開催し、系統的なガイドラインの策定を進めた。</p>

訪問生徒との交流、4年生社会・道徳の初大連携等)

【達成状況(Check)】(◎)

昨年度より、教科ごとに別々に実施していた初中連携会議を見直し、初等部・中等部の全教員が一堂に会し、より良い連携の在り方を共に考える機会を設定している。第1回連携会議では、初等部から「ミューズ学習」「入試広報」、中等部から「大阪府における私立中高の入試状況」「中等部から高等部への内部進学」について報告がされた。また、「初中高における AI 活用の進捗状況」についても共有が行われた。第2回連携会議では、初等部から「国際理解教育」「ミューズ学習」、中等部からは「中高等部の国際理解教育」「中高等部の探究学習」について報告がされた。実際の取り組みを報告し合うことで、相互理解を一層深めることができた。

英語科においては、2年前から開始した「中高等部文化祭における初中高等部生の英語スピーチ」の取り組みに加え、昨年度に引き続き、初中高等部の英語授業を外部に公開し、研究協議を行う「関西大学初等部・中等部・高等部外国語科公開授業研究会」を実施することができた。

児童生徒間の連携については、例年実施している「初等部・中等部対抗百人一首大会」や「クリスマスコンサート」において、初等部生・中等部生・高等部生が自然に打ち解け、和やかな雰囲気の中で交流を深める姿が見られた。

保護者との連携については、学校と教育後援会との協働による行事の実施に加え、学校ホームページ、登下校メール、学年ブログ等を通じたきめ細かな情報発信により、学校と保護者との間に信頼関係を築くことができています。

大学との連携については、4年生が毎年千里山キャンパスで学ぶ取り組みに加え、研究発表会当日のみならず、初等部全教員が行う授業研究において、関西大学総合情報学部の黒上晴夫教授から継続的に指導助言を受けてきた。また、「関西大学初等部・中等部・高等部外国語科公開授業研究会」では、関西大学外国語学部の今井裕之教授から指導助言をいただいた。さらに、本年度も関西大学社会安全学部の城下英行准教授のゼミ生を初等部に招き、各学年において安全に関するワークショップを実施していただいた。児童は、身近な大学生から学ぶことで、楽しみながら安全な暮らしについて理解を深めることができていた。

初中高大の連携に関しては、昨年度より「初等部から大学まで一貫した AI リテラシー教育及び AI ガイドラインを策定し、児童・生徒・教職員の AI 活用能力の向上を図る」ことを目的として、初中高大学が連携する「AI リテラシー・AI ガイドライン策

	<p>定委員会」を継続して開催してきた。その成果として、初中高において保護者及び児童生徒に提示可能なガイドラインを作成することができた。さらに、全国に先駆けて初中高大学が連携して策定した「AI リテラシー・AI ガイドライン」について、日本教育工学会 2026 年春季全国大会（2026 年 3 月 7 日・8 日開催）において研究成果を発表した。</p> <p>以上のように、本年度は初中高大学との連携が昨年度以上に深化した一年となった。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>初中高連携については、管理職間の協議の場を深化させ、課題の共通認識と具体的な方策について継続的に検討していく必要がある。また、中高等部主催による初等部卒業生と教員の座談会等を通して、今後も保護者に対するより良い情報提供の方法を模索していく。</p> <p>保護者連携については、学校と家庭との連携に加え、保護者同士の円滑な関係づくりや相互の連携、マナー意識の向上について、教育後援会と連携しながら継続的に取り組んでいきたい。</p> <p>さらに、大学との連携については、教員の指導力向上及び児童の学習活動の一層の充実を図るため、より発展的な連携の在り方を検討していく。</p>
--	---

3 アンケートの実施状況

保護者アンケート・教員アンケート・児童アンケートは、2026 年 1 月 13 日から 1 月 26 日にかけて実施した。なお、本年度も昨年度と同様に、Google フォームを活用して実施した。

保護者アンケートの回収状況は、対象者 372 名中 350 名から回答があり、回収率は 94%であった。これは、昨年度と比較して 4 ポイントの減少である。教員アンケートについては、回収率 100%であった。児童アンケートは、4 年生から 6 年生を対象として実施し、風邪や発熱等により欠席・出席停止となった児童がいたことから、回収率は 98%（対象児童 182 名中 179 名提出）となった。

アンケートの項目数は、教員 40 項目、保護者 32 項目とし、例年どおり同一の観点を設定することで、結果の比較・分析が可能となるようにした。評価方法は、3 種類すべてのアンケートにおいて 4 段階評価とし、「よくあてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の 4 つの選択肢を用いた。

なお、アンケートの項目及び内容については、すべて職員会議において検討・承認されたものである。

4 アンケート結果の分析

ア 教員・保護者アンケートについて

保護者アンケートの回収率は 94%であった。昨年度よりは回収率が低下したものの、依然として高い水準を維持しており、保護者の皆様が本校の教育活動に高い関心を寄せてくださっている表れ

であると受け止めている。今後も、「学校と家庭が同じ方向を向いて子どもを育てていくことが大切である」というメッセージを、引き続き丁寧に発信していきたい。

教員アンケートは母数が 21 名であるため、1 人分の回答が全体の約 5%に相当する。一方、保護者アンケートは母数が 350 名であり、1 人分の回答は約 0.29%、17 人分で約 5%に相当する。こうした特性を踏まえ、2023 年度の学校関係者評価委員からは、「教員アンケートは 1 人の回答で数パーセントの変化が生じるため、細かな数値の増減にとらわれるよりも、全体的な傾向を捉えることが重要である。例えば、否定的な評価が半数を超える場合は、改善すべき課題と考えてよいのではないか」との助言をいただいている。今後もこの視点を大切にし、数値の変化に一喜一憂することなく、冷静かつ多角的な分析を行っていきたい。

アンケート全体を通して、保護者の評価は肯定的評価が 90%を超える項目がほとんどであり、これまで進めてきた初等部の教育活動に対して高い評価を得ていると受け止めている。教員の評価についても、項目ごとに多少の変動は見られるものの、全体としては昨年度を上回る結果となっている。

以下、アンケート結果について項目別に分析を述べる。

No. 1 は本校の私学としての独自性や認知度、No. 2 及び No. 3 は初等部教育全体に対する納得度・満足度について尋ねた項目である。保護者の肯定的評価はいずれも 96%以上と非常に高く、本校の教育方針や取り組みが理解され、支持されていることがうかがえる。今後も、保護者の満足度が一層高まるよう、教育活動のさらなる充実に努めていきたい。

教員については、No. 2 「公立や他私学に負けない教育」において肯定的評価が 100%となった。本校教育の根幹に関わる重要な項目であり、引き続き研鑽を積んでいきたい。

No. 4 から No. 15 (保護者は No. 9、10 を除く) は、学級経営や学習習慣を基盤とした学力向上の取り組みに関する項目である。保護者の評価では、No. 11 のみ肯定的評価が 89%であったが、その他の項目はいずれも 90%を上回っている。また、いずれの項目においても昨年度からの大きな増減は見られず、初等部の授業や教育活動について、一定の満足が得られていると捉えている。

教員の評価では、No. 9 「中等部接続に向けたカリキュラム作成」、No. 10 「初等部一貫の英語カリキュラム作成」が昨年度に引き続き低評価となっており、大きな課題であると認識している。一方で、「よくあてはまる」の割合は、No. 9 で 17 ポイント、No. 10 で 24 ポイント増加しており、本年度に進めてきた初等部・中等部連携の成果が表れ始めていると受け止めている。

No. 17 から No. 21 は、生徒指導及び特別活動に関する項目である(保護者は No. 21 を除く)。保護者の肯定的評価はいずれも 90%を超えており、生徒指導や特別活動について一定の理解と支持を得られていると考えられる。ただし、No. 17 「基本的な生活習慣などの積極的な指導」は肯定的評価が 3 ポイント減少しており、来年度はより良い評価につながるよう、指導の工夫・改善を図っていきたい。

No. 22 から No. 27 の道徳教育・人権教育・健康教育に関する項目では、No. 27 「健康や食に対する意欲・関心を高めるための取り組み」において、肯定的評価が保護者で 1 ポイント、教員で 5 ポイント増加した。食育に関する取り組みの成果が認められる結果であると捉えている。

No. 28 から No. 32 (保護者は No. 28、30 を除く) は安全管理に関する項目である。保護者の肯定的評価はいずれも 98%以上と非常に高い水準にあり、引き続き 100%を目指して取り組みを進めて

いきたい。

No. 33 から No. 35（保護者は No. 34 を除く）は教員研修に関する項目である。保護者の肯定的評価はいずれも 98%を超えており、本校の研究活動や教員の研鑽が好意的に受け止められていることがうかがえる。

No. 36「中等部進学に向けた適切な情報提供」は、進路指導、特に保護者への情報提供に関する項目である。肯定的評価が保護者で 9 ポイント減少しており、中等部と連携しながら、進学や教育内容に関する情報提供の方法や内容について改善を図っていきたい。

No. 37（保護者は対象外）は入試・広報活動に関する項目であり、肯定的評価は 3 年連続で 100%となった。計画的かつ継続的な入試・広報活動が実施できている成果であると考えられる。

No. 38（保護者は対象外）は関西大学との連携に関する項目である。否定的な評価が 12%見られるなど課題は残るものの、肯定的評価の割合は年々上昇しており、連携は着実に進んでいると捉えている。本年度は、社会安全学部の学生による安全に関するワークショップの実施など、具体的な連携を継続することができた。今後もこれらの取り組みを継続するとともに、大学との新たな連携の在り方についても検討していきたい。

No. 39、40 は、教育後援会との連携及び学校と家庭との連絡・相談に関する項目である。保護者の肯定的評価はいずれも 97%以上、教員の肯定的評価は 100%と高い評価を得ている。来年度以降も同様の成果が得られるよう、学校・家庭・教育後援会の良好な関係を継続していきたい。

イ 児童アンケートについて

昨年度と同様に、10 項目すべて、肯定的評価が 90%を超えている。この結果から、どの学年の児童も学校生活や自身のがんばりを概ね肯定的に評価していることがわかる。

次にアンケート結果の分析について述べる。

No. 1 及び No. 2 は、初等部での在籍及び学校生活に関する評価である。No. 1「関西大学初等部に入学して良かった」では肯定的評価が 96%、No. 2「学校は楽しいですか」では 93%となっている。いずれも肯定的評価が 90%を超えているものの、否定的評価をしている児童が No. 1 で 4%、No. 2 で 7%存在していることは、無視できない課題である。今後、肯定的評価 100%を目指し、継続的に取り組みを進めていきたい。

学習に関する項目では、No. 3「勉強意欲」が 91%、No. 4「思考力がついたか」が 90%の肯定的評価となっている。一定の成果は見られるものの、可能な限り 100%に近づけられるよう、さらなる工夫と改善を重ねていきたい。No. 5「授業評価」については肯定的評価が 90%となり、昨年度の 97%から 7 ポイント減少している。この結果を真摯に受け止め、来年度に向けて改善を図っていく。

No. 6「読書や資料活用」及び No. 7「ICT 活用」は昨年度より肯定的評価が 1 ポイント減少している。今後の取り組みを通して、評価の推移を注意深く見守っていきたい。

No. 8「運動会や文化祭などへの参加意欲」については、昨年度と同様に 96%が肯定的評価となっている。来年度は、さらに「児童主体の運動会」の充実を図っていきたい。

No. 9「学校生活のルール遵守」では、肯定的評価が昨年度から 4 ポイント減の 91%となっている。児童一人ひとりの意識が高まるよう、日頃からの声かけをはじめとした組織的な対応を進めて

いきたい。

No.10「いじめやなかまはずれ」については、肯定的評価が93%であった。今後は、より一層児童に寄り添い、肯定的評価が100%となることを目指していく。また、いじめやなかまはずれが起こった場合には、児童が自らの言動を振り返り、問題を自覚できるよう丁寧に促していく。

5 学校関係者評価委員会からの評価結果

(1) 自己評価の結果を受けて

ア 重点目標①：本校教育の柱である思考力育成の取組のさらなる充実を図るとともに、主体的・探究的に授業研究に取り組むこと

・6月に実施したオープンスクールでは、児童が主体的に学び合う姿や「問い」を引き出す教員の指導力について、実施後のアンケートに高く評価されていることに好感を抱いた。

・同6月に実施したICT活用の公開授業“Think×Act”×CREATION2025では、ICTやAIなどのシンキングツールの利活用等に対して参観者からのアンケート結果により高い評価を得ることができた。また、2024年10月に発足した関西大学・高等部・中等部・初等部合同のプロジェクトチーム「AIリテラシー・ガイドライン策定委員会」において、生成AIの利活用について教員・保護者・児童向けのガイドラインを作成することができたことは、初中高大連携として高く評価できる点である。

・2月に実施した研究発表会は、2025年度から名称を「初等部・中等部研究発表会」と改め初等部と中等部の連携をより一層深めた研究会となったこともあり、当日は昨年度より30名ほど多い約450名の参加があったことは初等部の教育が注目されていることの表れと考える。

・図書館での教育充実について、昨年度にデジタル図書を新しいシステムにしたことにより蔵書数が大幅に増加したことで、児童たちの利用率が上がり、読書意欲が高まっていることは非常に評価できる。公立小学校の標準蔵書数は約8,000冊であるのに対し、本校は24,000冊を超える蔵書数ということは児童の学びを深めるための学校の姿勢の表れであり、大いに評価できる。また、司書が5名いることで児童・教員の思いに沿った形での補助、図書の選定、そして小学生のうちから図書室の活用方法を学ぶことができる環境があることについては、今後進学していく過程でも非常に役立つものと考えられる。

・国際理解教育について、韓国、台湾、フィリピン、ニュージーランドの小学校との交流を実施することができたことに加え、今年度は海外からの学校視察が多く、児童間、教員間の交流を深めることができた。将来的に学校経営を計画している企業に初等部の教育を見て感じてもらえたことについては、国際交流の観点からも非常に評価できる。

イ 重点目標②：良好な校風醸成の基盤となる生活規範、倫理観、人権意識の向上等について全教育活動を通じて推進すること

・いじめや不登校への対策について、「いじめ・不登校対策委員会」が設置されていること、また、仮に事案が発生したときは迅速かつ適切に対応できるよう組織としての支援体制を整えていることについては、児童の心理的安全性を強く意識をした適切な学校体制であると評価できる。

・いじめ問題は担任教員がひとりで抱え込みやすい事項でもあるが、管理職教員が常に高いア

ンテナを張り、異変を感じた際に担任教員へ丁寧に声掛けをしたり、教員全体での情報共有を行ったりし、問題解決に向けて組織全体で対応することができる体制づくりができていたことを確認することができた。

・人権教育として、児童への歩み寄りや個々を尊重することを常に意識しながら教育活動にあたっていることを確認することができた。

ウ 重点目標③：管理面・指導面について継続的に改善を図るとともに、中高等部・大学及び保護者との連携を意識した学校運営体制を整えること

・安心・安全の学校生活を構築するための安全管理・指導の達成状況が◎になっていることは、素晴らしいと感じた。とりわけ不審者対応訓練については、実際に起こった事例を想定し、警察との連携により訓練を行うことができており、組織としての危機管理意識が見られることが非常に評価できる点である。

・校長が自ら児童の登校時に門の前に立って挨拶をしたり、通常授業や授業参観の様子を見に行ったりすることは、かつての学校ではあまり考えられなかった。校長は入学式、卒業式などの式典、運動会や音楽会などの学校行事で挨拶をするときに見る程度で児童からは縁遠い存在であったように思う。昨今のように児童にとって身近な存在となり、気軽に話せることは児童にとって非常に心強いことであると感じる。

・より多くの出願を目指す入学試験の実施について、入試イベントとして初等部の卒業生を招き現在の様子を話してもらうことで、初等部卒業生の具体的なイメージを持ってもらい、「将来、自分の子供をこの学校に通わせたい」と思ってもらえることも入試広報の一環として重要ではないか。

・引き続き、中等部・高等部との連携に尽力いただきたい。

・初等部・中等部・高等部の連携行事として、今年度高等部主催で海外大学への進学に関する説明会を実施した際、100組の初等部児童・保護者が参加したとのことで、関西大学への進学だけではなく、将来の進学先については視野を広く持っていることがわかった。

(2) アンケート結果について

・保護者用アンケートについては、回収率が94%と、昨年から4ポイント下がったとはいえ、非常に高い回収率であったことは、多くの保護者が学校教育に目を向けていることがわかる結果である。また、アンケート項目に関する回答としても、ほとんどの項目で90%以上の肯定的評価を得ることができたことは、学校に対する評価の表れと考える。

・「中等部進学に向けて必要な情報を得ることができたと思えますか。」の項目が、昨年度から9ポイント肯定的評価が下がったことについて、保護者は中等部の情報提供を求めているのか、もしくは他の私立中学校の情報も含めて進学に関する情報を得たいのかなど、どのような情報提供を行うことが適切なのかを調査する必要もあるのかもしれない。

・保護者目線でいうと、中等部に入学したら、子供がどのように育っていくのか具体的かつ明確なビジョンが必要であると感じる。そのような中で、中等部卒業生に学校説明会に参加してもらったり、インタビュー動画に出演してもらったり、保護者として率直な話を聞かせてもらいたいという気持ちはある。

・初等部卒業後、中等部・高等部へ進学した際に成績不良となった生徒へのフォローも保護者としては気にするところだと感じる。学校としてこうした対応をしていますという姿勢を見せることが保護者の安心につながると感じる。

[学校関係者評価委員会委員名簿]

氏名	所属及び役職
土井 六三	高槻市磐手地区コミュニティ協議会 会長 高槻市古曾部町自治会 会長
大中原 雄高	関西大学初等部教育後援会 会長
城下 英行	関西大学社会安全学部 准教授 ※評価結果取りまとめ執筆者
今田 雅彦	関西大学初等部 校長

6 校長の意見書

関西大学 初等部
校長 今田 雅彦

今年度の本校の教育活動及び学校運営について、学校関係者評価委員会の皆様から、多角的な視点からご意見・ご評価をいただいた評価結果は、本校の取り組みの成果を確認するとともに、今後の改善に向けた重要な指針となるものと受け止めている。

重点目標①「本校教育の柱である思考力育成の取組のさらなる充実を図るとともに、主体的・探究的に授業研究に取り組むこと」については、オープンスクールや ICT 活用の公開授業“Think×Act”×CREATION2025、研究発表会等の取り組みに対して高い評価をいただいた。また、関西大学及び中等部・高等部との連携による「AI リテラシー・ガイドライン策定委員会」の取り組みについても評価をいただき、初等部から大学までの連携による教育の可能性を改めて確認することができた。今後も児童の思考力・主体性・探究心を育む教育の充実を図るとともに、研究活動を通して教育実践のさらなる深化に努めていく。加えて、図書館教育や国際理解教育についても高い評価をいただいた。豊富な蔵書環境や司書の専門性を活かした読書活動の推進、海外校との交流の継続・発展により、児童の視野を広げる学びを一層充実させていく。

重点目標②「良好な校風醸成の基盤となる生活規範、倫理観、人権意識の向上等について全教育活動を通じて推進すること」については、「いじめ・不登校対策委員会」を中心とした組織的対応体制や、教職員間の情報共有の仕組みについて評価をいただいた。児童一人ひとりが安心して学校生活を送ることができる環境づくりは学校教育の根幹であり、今後も児童の小さな変化を見逃さない体制を維持しながら、教職員が連携して早期発見・早期対応に努めていく。また、人権教育についても、児童一人ひとりを尊重する姿勢を大切にしながら、日々の教育活動の中で着実に推進していく。

重点目標③「管理面・指導面について継続的に改善を図るとともに、中高等部・大学及び保護者との連携を意識した学校運営体制を整えること」については、安全管理や危機管理体制に関して高い評価をいただいた。特に、不審者対応訓練など警察と連携した実践的な取り組みについて評価いただいたことから、今後も安心・安全な学校環境の維持に努めていく。また、児童にとって身近

な存在として校長が日常的に児童と関わる姿勢についても評価いただいた。今後も児童との対話を大切にしながら学校運営を進めていく。さらに、中等部・高等部との連携や進学に関する情報提供についていただいた提案をもとに、児童や保護者が将来の進路を具体的にイメージできるよう、中等部・高等部との連携行事や情報発信の工夫を進めていく。

アンケート結果については、保護者アンケートの回収率が94%と高い水準を維持しており、多くの保護者の皆様が学校教育に関心をもち、学校と共に児童の成長を支えてくださっていることを大変ありがたく感じている。一方で、重点目標③に関わって「中等部進学に向けて必要な情報提供」に関する評価の低下については真摯に受け止め、保護者が求める情報の内容や提供方法について改めて検討していく。

今回いただいた貴重なご意見を今後の学校運営に活かし、教育理念や教育理念、教育目標そして校訓の実現に向けて教職員一同、より一層努力していく。

以 上

7 アンケート結果

2025 年度 学校評価アンケート質問項目（教員用／保護者用）

2025 年度 学校評価アンケート集計（教員／保護者）

2025 年度 学校評価アンケート質問項目（児童用）

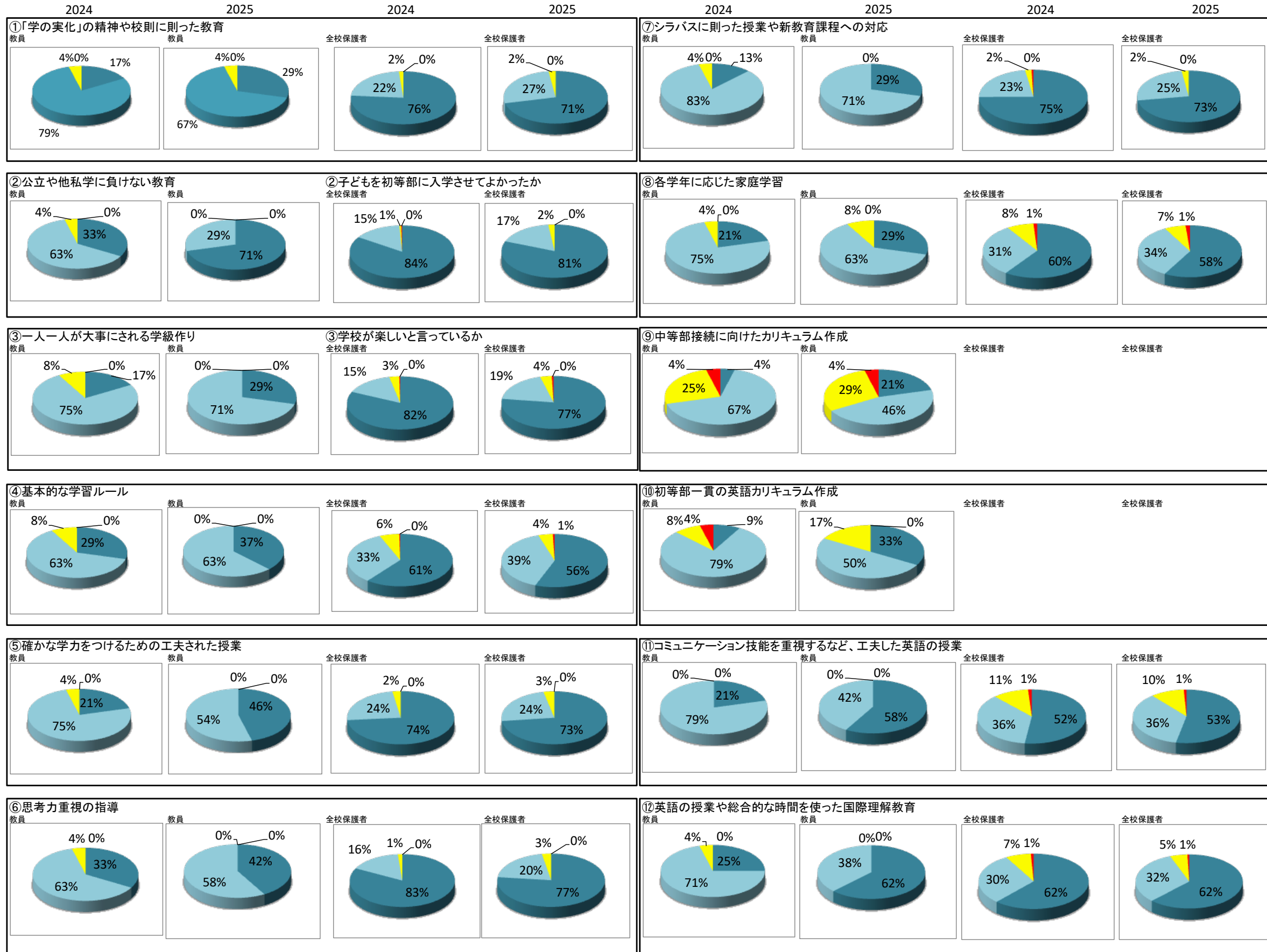
2025 年度 児童アンケート集計

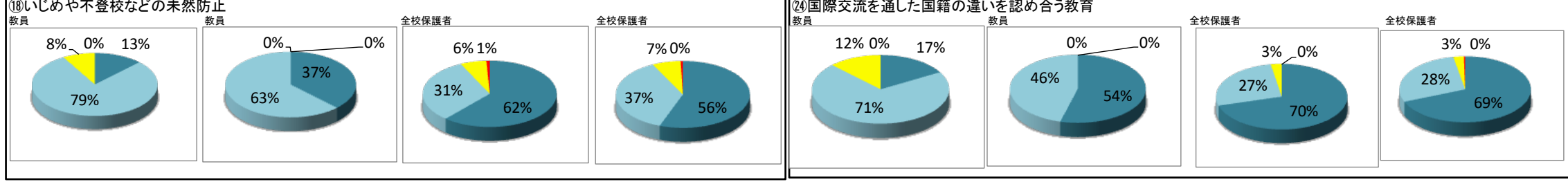
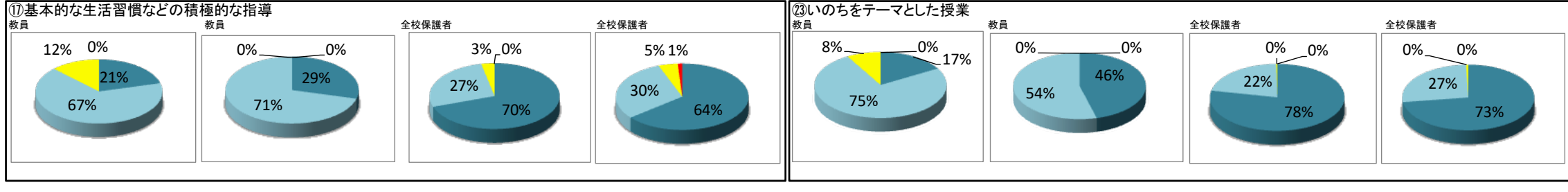
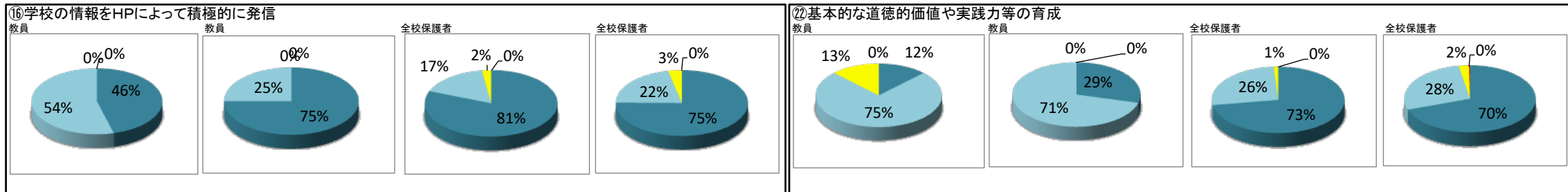
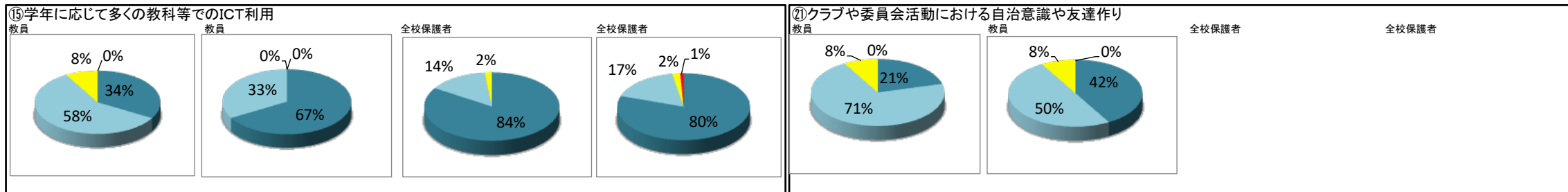
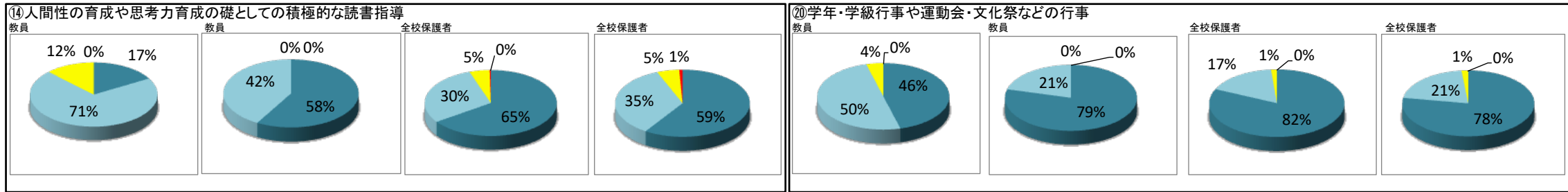
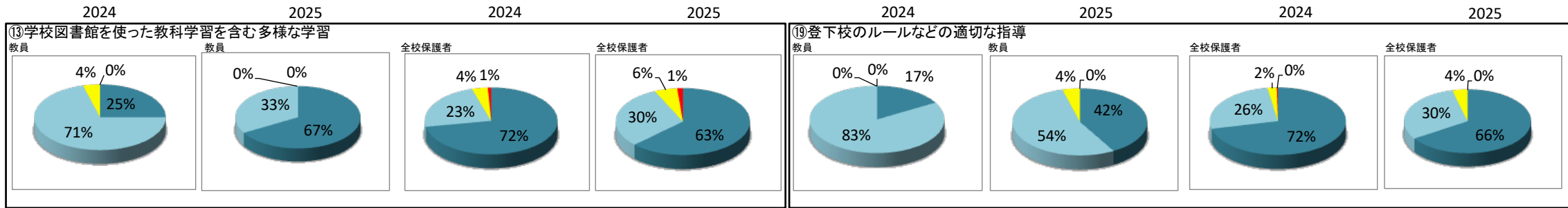
2025年度 学校評価アンケート（質問項目）

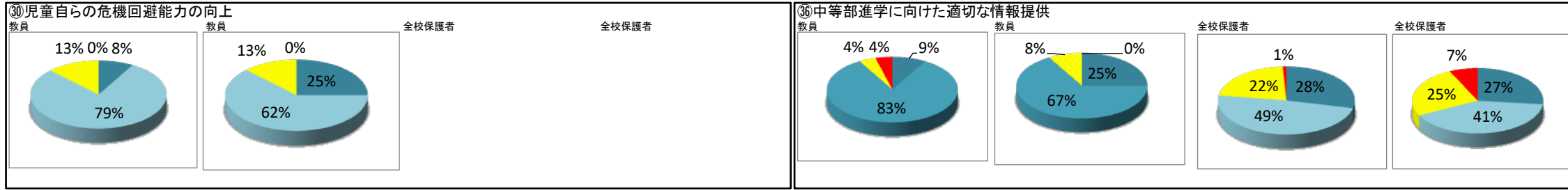
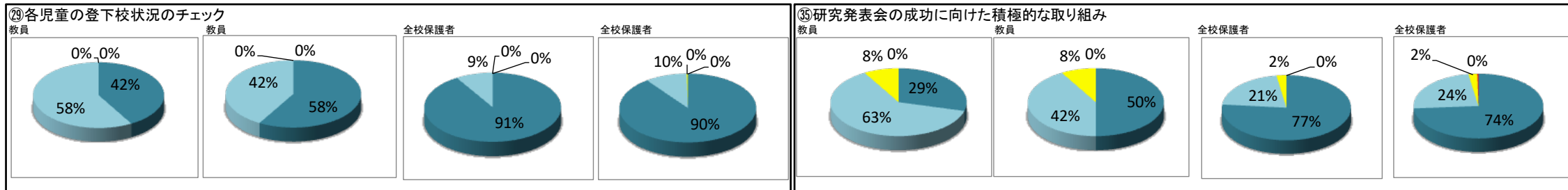
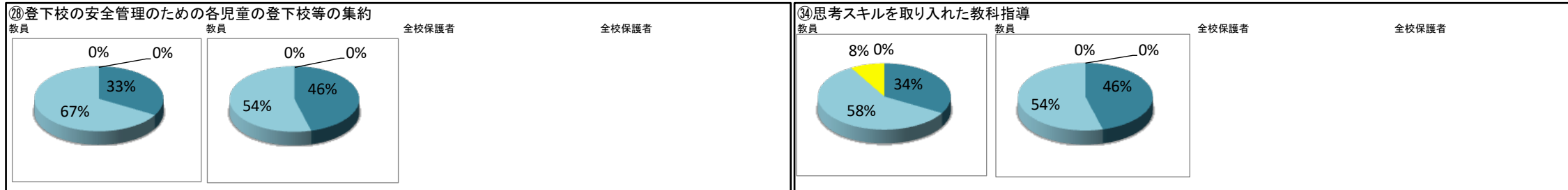
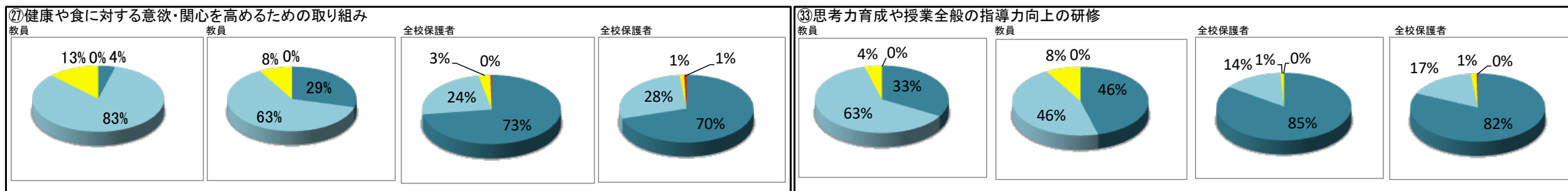
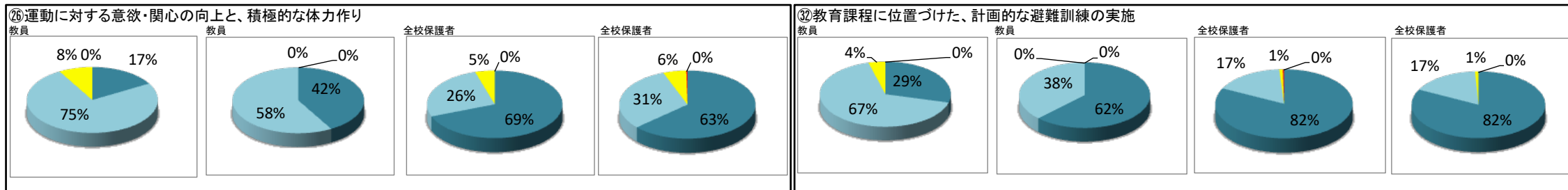
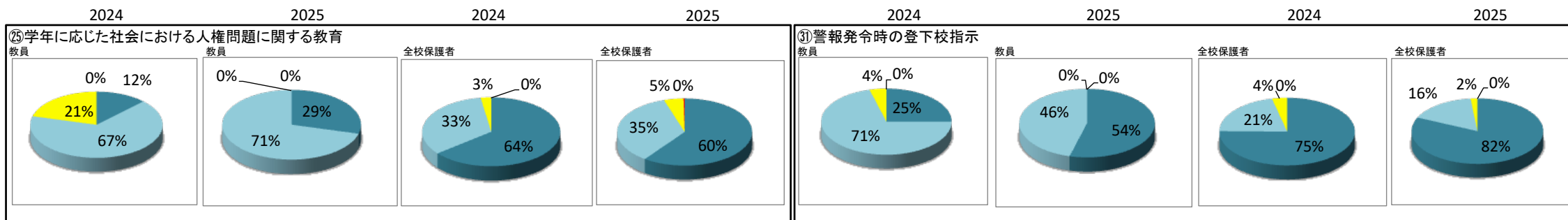
	教員用	保護者用
◎私学の独自性	①「学の実化」の精神や校訓に則った教育が行われている。	①関西大学の「学の実化」の精神や初等部の教育方針・校訓に沿った教育活動が行われていると思われませんか。
(教育方針)	②関西大学初等部では公立や他私学に負けない教育が行われている。	②保護者としてお子さんを関西大学初等部に入学させて良かったと思われませんか。
(1) 学級経営	③一人ひとりが大事にされる学級作りが行われている。	③お子さんは学校が楽しいと言っていますか。
(2) 学力向上	④基本的な学習ルールが学年に応じて身につけられている。	④お子さんの授業中の学習態度はきちんと身に付いていると思われませんか。
	⑤確かな学力をつけるための工夫された授業が行われている。	⑤学力をつけるために工夫された授業が行われていると思われませんか。
	⑥思考力育成に重点を置いた指導が積極的に行われている。	⑥思考力の育成を重視した授業が積極的に取り入れられていると思われませんか。
	⑦シラバスに則った授業や新教育課程への対応がなされている。	⑦シラバスや週案に対応した学習が適切に進められていると思われませんか。
	⑧各学年に応じた家庭学習が推進されている。(家庭への啓発、指導等)	⑧学年に応じ宿題や自主学習等の家庭学習を進める指導を行っていると思われませんか。
	⑨中等部接続に向けてのカリキュラム連携に取り組んでいる。	
(3) 英語教育	⑩初等部一貫のカリキュラム作成に取り組んでいる。	
	⑪コミュニケーション技能の重視など、工夫した英語の授業がなされている。	⑨英語教育では、コミュニケーション技能をはじめ、「話す」「聞く」「読む」「書く」の四技能をバランス良く指導していると思われませんか。
(4) 国際理解	⑫総合的な学習の時間や英語の授業などで国際理解教育が推進されている。	⑩外国の方との交流など、学年（発達段階）に応じて国際理解学習を進めていると思われませんか。
(5) 図書館	⑬学校図書館を使って教科学習を含む多様な学習が行われている。	⑪図書館(はてな館・わくわく館)では読書だけでなく、ミューズ学習等、多様な教育が行われていることをご存じですか。
	⑭人間性の育成や思考力育成の礎として積極的な読書指導が行われている。	⑫読書の時間の設定や電子図書の利用など、学年に応じた読書指導が行われていると思われませんか。
(6) ICT	⑮学年に応じて多くの教科等で計画的な利用がなされている。	⑬授業等でiPad等の情報機器が効果的に活用されていると思われませんか。
	⑯学校の情報がHPや学級通信・学年ブログ等によって積極的に発信されている。	⑭HPや学年通信・学年ブログ等から初等部の情報を得ることができていると思われませんか。
(7) 生徒指導	⑰学校での基本的な生活習慣などの指導が積極的になされている。	⑮挨拶や返事等の基本的な生活習慣の指導が適切になされていると思われませんか。
	⑱いじめや不登校などの未然防止や継続的な指導に取り組んでいる。	⑯いじめや不登校が起こらないように未然防止・早期対応等に学校全体で取り組んでいると思われませんか。
	⑲通学でのルール遵守やマナーを考えた行動などについて積極的な指導を行っている。	⑰交通ルールやマナーの指導等、適切な登下校指導が行われていると思われませんか。
(8) 特別活動	⑳学年・学級行事や運動会・文化祭などの行事に積極的に取り組んでいる。	⑱学年・学級行事や運動会・文化祭などの学校行事が学年（発達段階）に応じて行われていると思われませんか。
	㉑クラブや委員会活動において自治意識や友だちづくりを図っている。	
(9) 道徳教育	㉒道徳科の授業を通して、道徳的心情や実践力等の心の育成を行っている。	⑲授業や多くの機会を通じて道徳心の育成を学年（発達段階）に応じて行っていると思われませんか。
(10) 人権教育	㉓「いのち」をテーマにした授業に積極的に取り組んでいる。(健康教育とリンク)	⑳学年に応じて「いのちや成長に関する授業」に学年（発達段階）に応じて取り組んでいると思われませんか。
	㉔国際交流等を通じ国籍・文化などの違いを認め合う教育を積極的に進めている。	㉑(※2年～6年保護者のみ)国際交流等を通じて、国籍・人種などの違いを認め合う教育を学年（発達段階）に応じて行われていると思われませんか。
	㉕学年に応じて、社会における人権問題に関する教育を進めている。	㉒学年（発達段階）に応じて、社会における人権問題に関する教育を行っていると思われませんか。
(11) 健康教育	㉖運動に対する意欲・関心を高め、積極的な体力作りや技能向上の指導に努めている。	㉓体育の授業や体育的行事を通して、学年（発達段階）に応じて体力づくりを行っていると思われませんか。
	㉗「健康」「食」「いのち」に対する意欲・関心を高める取り組みを積極的に行っている。	㉔給食指導など、発達段階に応じた食育に取り組んでいると思われませんか。
(12) 安全管理	㉘通学の安全管理のため、各児童の通学路等の集約ができ、随時参照されている。	
	㉙各児童の通学状況が確実にチェックされ、円滑に家庭連絡されている。	㉕ICTタグによるチェック等、登下校の状況把握が確実に行われていると思われませんか。
	㉚児童自らの危機回避能力の向上のための指導に努めている。	
	㉛警報発令時等の緊急を要する連絡が明確に家庭に伝わっている。	㉖「警報発令時等の登下校について」の内容に沿った運営が行われていると思われませんか。
	㉜各種避難訓練や防犯訓練を教育課程に位置づけ、計画的に実施している。	㉗初等部では地震や火災などの避難訓練を適切に実施していると思われませんか。
(13) 研修	㉝思考力育成や授業全般の指導力向上の研修を積極的に実施している。	㉘教員は授業研究などを通して授業力の向上に努めていると思われませんか。
	㉞思考スキルを取り入れた教科指導を積極的に試みている。	
	㉟研究発表大会の成功に向けて全体で積極的に取り組んでいる。	㉙研究発表会は初等部の教育の推進に役立っていると思われませんか。
(14) 進路指導	㊱中等部進学に向けて高学年の児童や保護者に対し適切な情報を提供している。	㊱(※5・6年生保護者のみ)中等部進学に向けて必要な情報を得ることができたと思われませんか。
(15) 入試広報	㊲計画的な入試・広報活動が行われている。	
・連携	㊳研修等を中心に関西大学との連携が積極的に行われている。	
	㊴教育後援会と適切な連携が行われている。	㊳教育後援会は、教職員と望ましい連携がとれていると思われませんか。
	㊵学校と家庭との連絡や相談が必要に応じて適切に行われている。	㊴学校・学級からの連絡が必要に応じて適切に行われていると思われませんか。

2025年度 学校評価アンケート 集計

■ よくあてはまる ■ ややあてはまる ■ あまりあてはまらない ■ まったくあてはまらない







2024

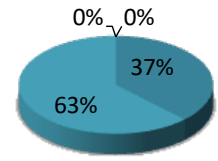
2025

2024

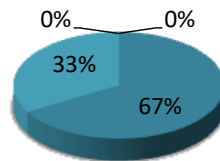
2025

⑳ 計画的な入試・広報活動

教員



教員

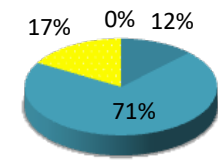


全校保護者

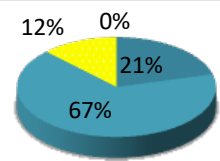
全校保護者

㉑ 研修を中心とした関西大学との連携

教員



教員

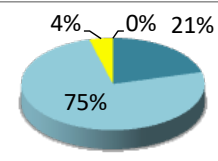


全校保護者

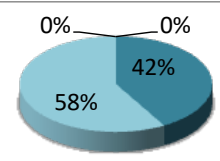
全校保護者

㉒ 教育後援会との緊密な連携

教員

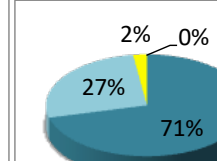
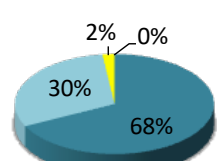


教員



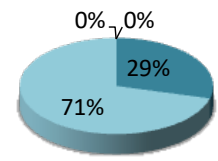
全校保護者

全校保護者

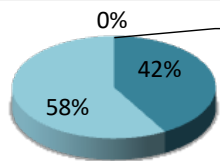


㉓ 学校や家庭との連絡や懇談

教員

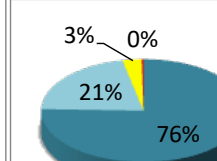
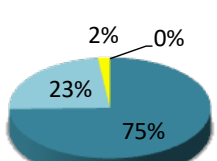


教員



全校保護者

全校保護者



学校生活をふりかえって（4・5・6年生用）

学校生活をふりかえって、下の質問に答えてください。

※ 1=よくあてはまる 2=ややあてはまる 3=ややあてはまらない 4=まったくあてはまらない

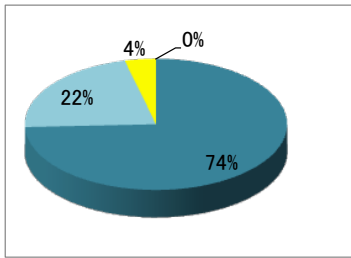
- ①関西大学初等部に入学してよかったと思いますか。
- ②学校は楽しいですか。
- ③勉強をがんばっていますか。
- ④思考力がついたと思いますか。
- ⑤先生方は工夫した授業をしていると思いますか。
- ⑥本や資料を、必要に応じて活用することができましたか。
- ⑦iPad やパソコンなどを、必要に応じて活用することができましたか。
- ⑧運動会や文化祭など、さまざまな行事に積極的に取り組みましたか。
- ⑨ルールやマナーを守って学校生活をおくることができましたか。
- ⑩「いじめ」や「なかまはずれ」などをせず、仲よく生活できていますか。

2025年度(児童アンケート)

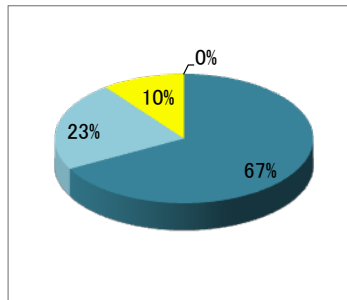
よくあてはまる ややあてはまる

あまりあてはまらない まったくあてはまらない

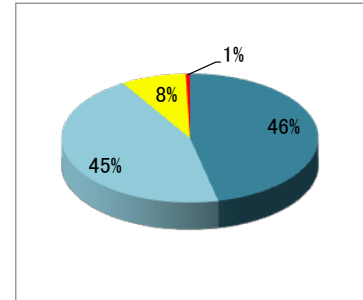
①関西大学初等部に入学してよかったと思いますか。



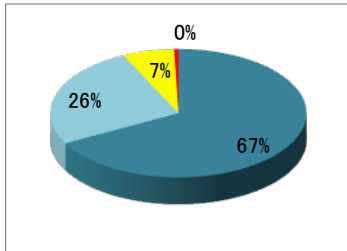
⑤先生方は工夫した授業をしていると思いますか。



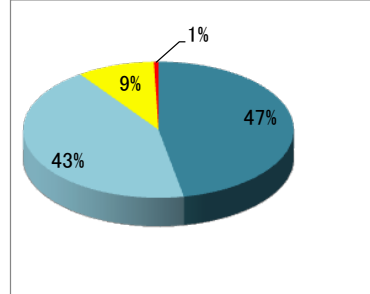
⑨ルールやマナーを守って学校生活を送ることができましたか。



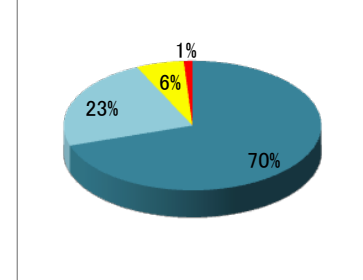
②学校は楽しいですか。



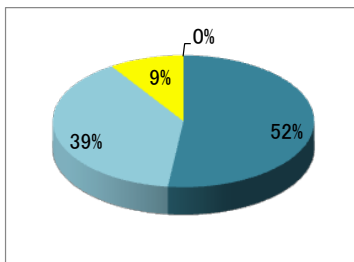
⑥本や資料を、必要に応じて活用することができましたか。



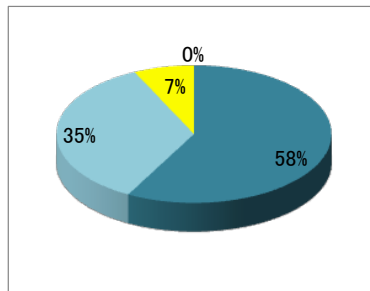
⑩「いじめ」や「なかまはずれ」などをせず、仲よく生活できていますか。



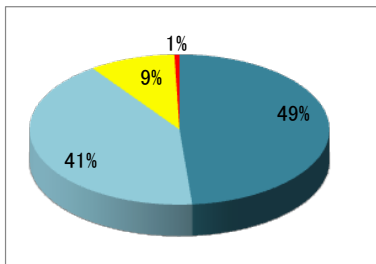
③勉強をがんばっていますか。



⑦iPadやパソコンなどを、必要に応じて活用することができましたか。



④思考力がついたと思いますか。



⑧運動会や文化祭などに積極的に取り組みましたか。

